阪神タイガース

VISION※球団のあるべき姿※

最高水準のプレーをお見せするプロ野球興行を行ないます。さらに映像・音声などの情報ビジネスやキャラクター商品の販売などの関連事業を展開します。

お客様重視の経営を行い、多くのお客様に愛される球団になります。

スポーツ振興や少年少女の健全な育成を重要な役割と認識して、様々な活動を行ないます。

全ての選手・職員が、仕事に対する誇りと自信を持って職務に取り組みます。

取引先や他球団との良好な関係を保ち、共に努力します。

☆甲子園球場史

阪神電鉄の甲子園開発は、大正 11 年 10 月 30 日兵庫県から武庫川の支流であった枝川・申川（さるがわ）の廃川敷地を買収し、本線の上手を住宅経営地・下手をスポーツセンターと遊園地にする構想から始まりました。すでに当時、鳴尾にグラウンドがあり、全国中等学校野球大会を大正 6 年 8 月の第 3 回大会から開催していましたが、野球熱が高まるにつれ、観客を収容しきれない状態となってきました。そこで、大きな野球場を希望する声が高まり、甲子園開発構想の一環として球場建設の英断を下したのです。

☆ 甲子園の土

球場建設で最も神経を使ったのがグラウンドの土でした。阪神間はもともと白砂青松の地で、土も白っぽく、ボールが見にくい状態でした。そのため、黒土を合わせようということになり、試行錯誤の結果、淡路島の土をとりよせ、粘り具合を確認しました。当時の担当者はグラウンドを走ったり、すべりこんだりして土の硬さや色目を実験しました。この熱意は今も受け継がれ、黒土と白砂のブレンドは常に変遷を経ています。現在は、国内の黒土と中国福建省の白砂をブレンドしています。なお、季節の雨量と陽射しを考慮して春には砂を多く、夏には黒土を多くし、良いプレーができるよう、グランドキーパーが配慮しています。

ページ設定：余白上下左右 20mm　　VISION の内容は２列９行の表を作成して入力
甲子園の写真は http://www.hanshin.co.jp/koshien/alacarte/から保存し挿入、テキストの折り返しを「四角」
甲子園の土の部分は段組を２段境界線あり、選手の写真は http://www.hanshintigers.jp/team/profile/から、好きな選手を２名保存し挿入(テキストでは赤星と金本)